



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞

里山の会話

守口 京子

夫「君が嫁入りのときに背負って持って来てくれた食材のおかげでおいしいご飯が食べられるよ。子供たちもすくすく育っている。」

妻「あなたの方こそ、こんな快適な広い家を作ってくれて家族がのびのび暮らせるわ。」

夫「子供たちが大人になって家を出て行っても立派に暮らせそうだね。」

妻「そうね。この里山には古い木がいっぱいあるし、住む家と食べ物には困らないわ。」

どこかの山の木の中でこんな会話をしているのではないのでしょうか？そう、それは今話題のカシノナガキクイムシです。体長わずか4mm、雄が古い木に穴を掘って巣を作り、雌は背中のマイカンギアと呼ばれる袋に何種類かの共生菌を入れてやって来るそうです。この共生菌を栽培して食料とする、さらには共生菌の中にはイースト菌の一種もあって、それを使って発酵させた食料をも食べているらしい。一夫一妻制でしかも夫婦で協力して子育てするとは、我が家も見習いたいほどです。2月の講習会で黒田先生からその話を聞いたとき、何と可愛らしく微笑ましい虫かと感心しました。

こんなことを言えば「里山に大変な被害が起こりそうなのにとんでもない。害虫に同情なんかいない。」としかられそうです。でも私達は小さい頃から虫と仲良く遊んでいたし「生き物をむやみに殺してはいけない」と親から言われていました。あれから数十年過ぎた今でも、生き物を観察してはその美しさに感動し、生き方を知るたびにその不思議さや巧みに驚きます。カシノナガキクイムシは自らの分を守ってつましく暮らし、その結果古くなった木をかじって土に返す「分解者」の一員です。

しかしながらカシノナガキクイムシの異常な増殖は里山を荒廃させてそこに住む動植物の生命を脅かし、さらには私達の生活にも関わる大きな問題となります。ある種の生物の異常な増殖が問題を起こして、増え過ぎて困ると言われているのは、シカ、サル、イノシシ、団塊世代とリュックを背負った中高年（私もその一員）。困ると言われたって自分の意志で生まれてきたわけでもないし、それこそ困ります。それは私だけでなくほかの動植物も同じことで、彼らにもきっと言い分があるはずで

考えれば矛盾だらけの私達の生活ですが、何事もほどほどになるべく迷惑をかけないように命を大事に生きていくのがいいと思います。里山の生物と仲良く暮らし、時には戦い、生き物みんながほどほどに、自分だけが繁栄せず生きていけるように願っています。これからも会の皆さんと色々な事を学びながら活動していきましょう。



ならやま「遊びの森」

「豊かさを問う—里山SATOYAMAの未来可能性—」

鈴木 末一

自然に人が働きかけることで、変化しながらも一定の持続的な表情を保っている里山の意味について、熱のこもったディスカッションがあり、それを受ける形で、第2部の特別講演があった。

まず、フランス文学者の**奥本大三郎氏**（日本昆虫協会会長、NPO日本アンリ・ファール会理事長）が、「**都会に里山を**」と題して、都市住民の生物保全とのかかわり方について、次のように語りかけた。お茶の水女子大学の構内・テニスコートの隣接地が、葛などがはびこり人の手が全く入っていない状態であった。その一画を復活させるために、皆伐方式で整備した後、蝶が食べるような植物を植えるなどを行った結果、多くの生き物が来るようになった。幼少期にできるだけ多くの自然体験を持つことの大切さを問い掛けられた。

あん・まくどなると氏（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）が、「**里山・里海万華鏡**」のテーマで、流暢な日本語で講演。写真家・木村伊兵衛氏の写真を見ているうちに、日本の里人の暮らしぶりが記録されていることに気づき、以来20数年、日本各地を旅してきた。そして、どうかすると近くて遠い存在となっているが、海や山がもたらす多くのもののあるのが能登半島である。この地が持つ多様性を保全していくには、適応力のある森林保全などに配慮していくことが大切である。

次に、金沢大学が能登半島で実施している環境配慮の農林業人材育成事業「**能登里山マイスター**」養成プログラムについて、**北野慎一特任助教**が講演。耕作放棄地割合は、全国平均19%に対して、奥能登は30.9%である。しかし現在、豊かな里山里海や伝統食品加工技術などを最大限に引き出し、環境に配慮した農林業を起業したいという人材を育成している。今後の課題として、①里山学、地域再生学の体系化、②地域との信頼関係の深化の方策などが挙げられているので、『若い人たちが、希望を感じるプロジェクトづくり』に励みたい、と決意の程を語られた。

そして、**阿部健一氏**（総合地球環境学研究所教授）が、「**里山SATOYAMAという関係価値**」と題して講演。人間がかかわることによって豊かになる自然がある。貴重な資源を、使いながら未来に残す知恵がある。多様な自然と、それに根ざした多様で豊かな文化。「熱帯アジアやヨーロッパの里山にも共通する、人と自然の新たなかかわり方を探りつつ、国際社会へ向けてSATOYAMAのこころを発信することが大切である。」と結ばれた。

この後、中村浩二学長補佐の司会でパネルディスカッションが開かれ、「里山SATOYAMAをめぐる共通の問題を明らかにするとともに、あらたな里山SATOYAMAのあり方」、「人と自然が調和する里山の概念を世界に広めるためには、アジアからの情報発信が必要」などと論じ合われた。

宮本常一さん（民俗学者）は、「**自然が寂しい。しかし、そこに人の手が加わるとあたたかくなるんだ。**」と言っておられる。（著作集43「自然と日本人」）



3 月例会報告 津越の福寿草を訪ねて

担当：西谷・豊島

2 月 28 日(日)雨のち曇り 城戸 11 時集合
参加者 15 名

前日からの雨が朝まで残り、例会を実施するか延期にするかずいぶん迷いましたが、午後からはお天気が回復するということを信じて例会を決行しました。

雨が降る中、城戸まではるばる電車やバスを乗り継いで 15 名が参加しました。歩き始めるころには雨も上がり、途中花木の出荷用に栽培しているサンシュや桃、ヤブ椿、しだれ梅などが満開で目を楽しませてくれました。津越ではお目当ての福寿草の群落に出迎えられ肌寒い日ではありましたが、山里の一日を楽しく散策することができました。



〈癒しの散歩道〉

遅咲きの小さな春の調べ

谷川 萬太郎

生まれたばかりの小さな春なのに春なのに まるで流れ星のように光っては消える惜しい空

北国の淡雪が白い雲に融けた朝明けに 春色の馬車が季節のデコボコ道を南へひた走る

まばゆい春の衣装が微風に裾を靡かせながら やがて赤いつぼみの夢が大きく膨らんで花開く

萌える青空に麗しく鷗の群れ飛ぶ小さな妖精たちが 青海原に弧を描き舞い踊る円舞曲

春の嵐過ぎた山に残雪が織りなす光と影 虹色に染まる青葉ゆれて心地良く響く銀の鈴の音よ

ならやまプロジェクト・レポート 22年3月

2月20日(土) 晴 放棄田の笹藪ついに一掃! 参加者47人(実習生11人)

- ・笹藪Ⅱの刈取りは、2月完了を目指してハイピッチ。6台の刈払い機を動員し、刈る人、引出す人、束ねる人、運び出す人のチームプレーですすめる。男子のほぼ全員が参加して、昼過ぎまでに完了。景観上最大の問題個所だった笹藪は3年間かけて一掃されました。今後、3月中に県の手で整地され、4月以降「ならやま」にふさわしい景観づくりに取り組みます。皆様のご参加をお願いいたします。
- ・シニア自然大学の実習生受入れは今月が最終回。リーダーの適切な指導とメンバーの皆さんの温かい受入れで、受講生からは毎回上々の評価。お陰さまで卒業生のうち16名の方が当会に入会されることになりました。関係者の皆さんご苦労様でした。

ラ家

2月25日(木) 晴 笹をチップにして堆肥に 参加者30名

- ・1年間刈り集めた笹をチップにする。NPO桜井菜の花プロジェクトさんのご好意で、新鋭のチップパー機を拝借でき、これがフル活動する。今日の残りは3月1日、3日に15人の有志が出動し、処理が完了しました。笹のチップはきめが細かく堆肥の原料として最適とのことで、農園Geが活用します。

3月8日(月) 曇 野鳥調査の日 参加者 7名



3月11日(木) 晴 椎茸菌打ち ジャガイモ植付け 参加者 31名

- ・コナラの間伐材のホダ木150本に椎茸菌を、20本にはナメタケの菌を植付ける。3年前のホダ木からは盛んに椎茸が出ているが、イベントに備えて収穫は遠慮する。
- ・ジャガイモは、定番のメイクイーン、キタアカリ、ダンシャク3品種を計5畝に植えた。堆肥を入れ念入りに土づくりをした畑だから、いい成績が期待できそうだ。

3月13日(土) 曇 イベント「やってみよう しいたけづくり」 参加者 64名

- ・雨で順延されたが殆ど欠けることなく、児童21名保護者10名の参加があった。常連の佐保台小学校をメインに、昨年校庭でインプリを実施した佐保川小学校からもグループでの参加があった。スタッフ25名という万全の態勢で、椎茸の収穫、菌打ち、間伐、木登りなどの山遊びと里山体験プログラムは、面白さ一杯だったようだ。皆さん椎茸のお土産やカブトムシの幼虫を手笑顔で帰って行きました。

3月20日(土) 曇 新入会員歓迎会 新入会員 17名、現会員 33名参加

- ・シニア自然大学からの新入会員、および昨年6月以降入会された会員の歓迎会が開催された。阿部会長は、心からの歓迎の言葉と、奈良・人と自然の会の概要の説明の後、奈良の自然を愛する気持ちを大切に、仲間と楽しく伸び伸びと活動しようという呼び掛けられました。

川井顧問のご発声で乾杯のあと、会員の手造りのバーベキューでパーティーに移り、新会員は先輩と互いの思いを語り合い、良い雰囲気になり盛り上がっていました。

(古川祐司 記)

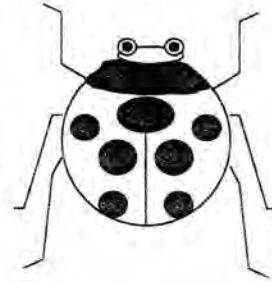
＊なら山の春の昆虫＊

木村 裕

みなさん、こんにちは！ 私はなら山に住むテントウムシです。年がら年中7つの黒い丸い模様のついた赤い服を着ているので、友達からはナナホシテントウと呼ばれています。今日は私たちの仲間を紹介します。

ぽかぽか陽気となり、私たち虫仲間は長くて寒い冬を眠って過ごしてきた隠れがからいっせいに外へ飛び出しました。ゴールデンウィークの4月下旬頃から一気に仲間が増え、あちらこちらで春の挨拶が賑やかに始まります。

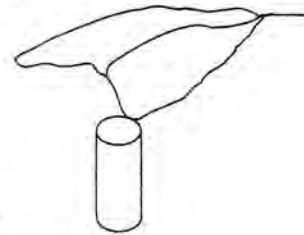
橙色のドレスを着たキタテハ、白い地に黄色の三角模様をあしらったエレガントな服のツマキチョウ、赤いワンピースを着たベニシジミなど、みんな着飾って花から花へと忙しく飛び回っています。



私ともっとも親しいのは衣装持ちのナミテントウです。赤色、黒色、黒地に赤い日の丸模様、赤地に黒い小さな点々模様など、色とりどりの服装をもっています。私の仲間は彼のほか、もっと体の大きい仲間、もっと小型のかわいらしい仲間などがいますが、ほとんどみんなアブラムシを主食にしているので農家のおじさんやなら山の農園管理者からは益虫と言って可愛がられています。しかし、赤色地に28個の黒紋をあしらった服をきているニジュウヤホシテントウは、ナスやトマトの葉を齧るのでテントウムシダマシといって嫌われ、軽蔑されています。

春に発生する虫仲間は全体的にみんな体は小さく、カブトムシのような大型の仲間はまだ現れていません。春にもっとも種類数や個体数の多いのはハムシ（葉虫）、ゾウムシ（象虫）、ハバチ（葉蜂）です。ハムシは長さ5ミリ前後の甲虫で、成虫も幼虫も同じ草木の葉を食べています。ハンノキにはハンノキハムシ、イタドリにはイタドリハムシ、キイチゴ類にはノミハムシの仲間が何匹も集まって葉っぱを美味しそうに齧っています。

ゾウムシもいろいろな植物の葉を主食にしており、形がハムシに似ていますが、頭の先が象の鼻のように長く伸びているのが特徴です。クヌギやコナラにはたくさんの仲間が住んでいます。この仲間で葉をくるくると丸めて樽状にまとめてその中に卵を産みこむオトシブミも忙しそうに働いています。



ハバチはハチの仲間、成虫は長さ1～1.5センチですがアシナガバチのように胴体がくびれておらず、あまりスマートではありません。また人を刺す毒針も持っていません。その代わりにお尻にノコギリを持っていて、それで葉を薄く切り裂いて葉の中に卵を産みこみます。とくに4月下旬～5月下旬にはたくさんの成虫が飛び回って伴侶をさがしています。幼虫はアオムシのような姿をしており、卵から生まれると独力で葉を食べて大きくなります。ツツジにつくルリチュウレンジ（幼虫は緑色）、ダイコンの葉を食べるカブラハバチ（幼虫は黒色）などがよく見られます。

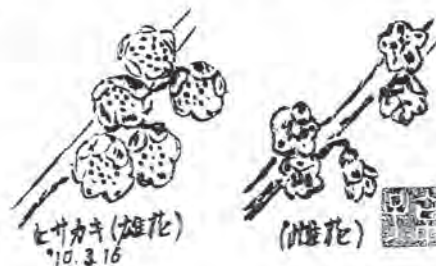
さあ、私も朝飯にアブラムシを腹いっぱい食べて、彼女を探しに行こう！

ならやま里山林花だより

守口 京子

3月16日(火)里山のあちこちで草が背丈を伸ばし、木々の新芽が出始めました。
花…ハコベ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ショ
カッサイ、オランダミミナグサ、ナズナ、ナタネ、カンサイタンボウ、ユキヤナギ、ア
セビ、クロモジ、ヒサカキ、ジンチョウゲ、コバノミツバツツジ

しいたけづくりのイベントに来た子どもたちと里山を散策すると、むっとするような
臭いがしました。散策路の両側にヒサカキの花がいっぱい咲いていました。「かわいい
花やね。」と話しかけたのですが、子どもたちは「わ
あ、くさっ」と連呼するばかりでした。白い花と白
い花びらに赤茶色の斑が入ったものと2種類ありま
した。特に白花の雌花は小さくて可愛いです。ツバ
キ科の花らしく雄花にはたくさんの黄色い雄しべ
があり、雌花には先が3裂した雌しべがあります。



ならやま蕎麦文化クラブ 会員募集！！

ならやまプロジェクトの活動をさらに盛り上げるために、「蕎麦文化クラブ」が
スタートします。 現在メンバーを募集中です。

ならやまプロジェクトでは、今年から廃棄田跡地を活用して蕎麦を植付けます。
蕎麦は、荒廃地でもよく成長し、開花時には一面の花が見事で、ならやまの秋を彩る景
観形成植物となります。

当クラブは、蕎麦の栽培から、収穫、蕎麦打ちなど、蕎麦に関する知識、技能、文化
を広く勉強し、豊かで楽しいならやまプロジェクト活動に役立ちたいと考えてスタート
しました。

当面の活動は、蕎麦打ちの実習が中心となりますが、必要に応じて、蕎麦栽培の見学、
蕎麦料理の勉強など広く蕎麦文化について知見を深めていくことも検討しています。ま
た、実技の指導には田辺 保さん(蕎麦打ち初段 シニア自然大学15期生)を迎えて
月1回程度の実習を行います。同好の方、興味のある方のご参加を歓迎いたします。

関心のある方は、事務局までご照会下さい。

申込・照会先

ならやま蕎麦文化クラブ

事務局 寺田 孝

シダレザクラ

奈 良県宇陀市の「本郷の瀧桜」は「又兵衛桜」の名称で有名になっています。特に2000年のNHK大河ドラマ「葵・徳川三代」のオープニング画面に使われて以来、シーズン中は駐車場がいっぱいになるにぎわいです。

ここの宇陀という地名は万葉集柿本人麻呂の読んだ「東の野にかぎろひの立つ見へて返り見すれば月傾きぬ」の歌はあまりにも有名です。毎年厳冬期に「かぎろひ」を見る催しが行われることでも有名です。

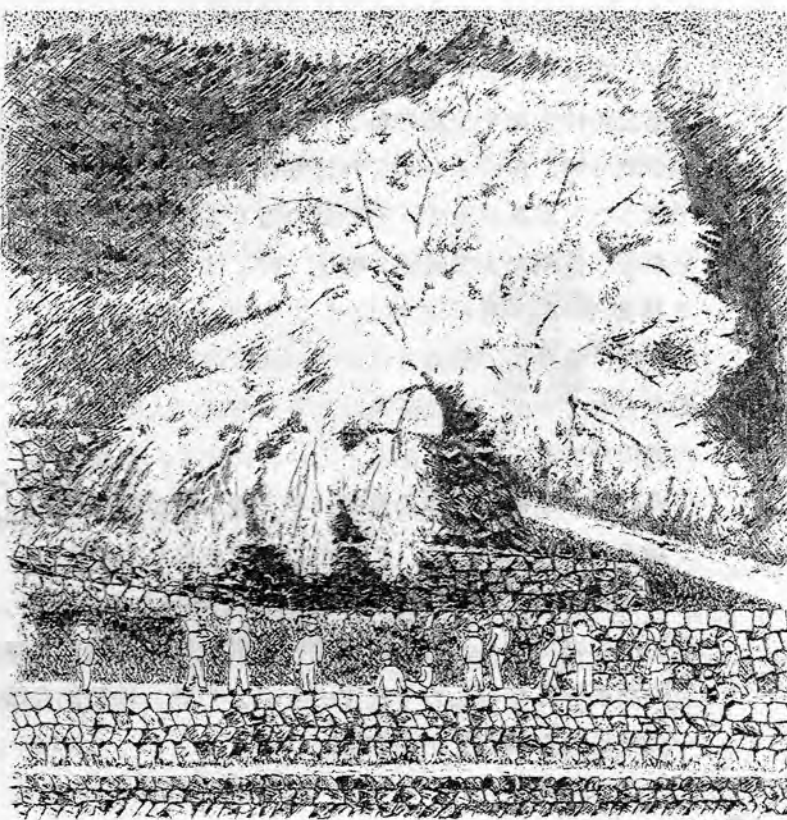
花言葉 優美

誕生花 3月19日

バラ科

スモモ属

学名 *Prunus pendula* var. *pendula*



自然俳句欄

福寿草日差し待つ身のいじらしき 秀 夫

山すこし動き初めたり露の臺 秀 夫

3月例会。吉野・津越の福寿草 群生地を訪ねる。束の間の日射しに彩色が映える。そこかしこに、露の臺が若草色の顔を出す。漸く、山村にも春を実感する季節がやって来た。

コジュケイ

小田 久美子

春になるとオスはとてつもない大声で「チョットコイ、チョットコイ」と繰り返し鳴くコジュケイ。大都会の住宅地や公園の藪でもその素頓狂な声でオスが歌う時、傍のメスがこれに唱和してデュエットで歌うことがあります。その間の取り方はまことに見事な二重唱で夫唱婦随の権化。時にはファミリーで移動しているのに会うことがあります。轉り、繁殖期に縄張りやメスの確保のため大変大切なものですが、鳥は高等な知能が発達し人間並みの感情や情緒の働きがあるともいわれます。百鳥が一斉に鳴き始める「暁の合唱」や、俄か雨が揚がって陽光が射し始めた時、ここかしこで小鳥たちの合唱が沸き起こるのは、採餌や縄張り確保のような個人的なものでなく、まさに太陽の再来を迎える喜びを謳歌し、その森や林や草原に棲む社会的なまとまりをしめす社交的な歓喜の歌、情緒的な現象だと思う時、私たちの森林浴も一層楽しいものになりますね。



★(檀原)2月24日畑の土を急に起こされたカエルが目をこすって(?)でできた。出てきたばかりのカエルって体の色が薄いベージュ色ということを発見。

・3月13日午後2時 ん?ネコ?ちがう...こっち向いた...エッ!タヌキ? タヌキだあ...! 自宅(檀原)の庭です。体長40センチくらい。どっからきたの?

・14日朝 長一いシマヘビが歩道をちゃんとわきまえてクネクネと散歩中、思わず「春だね!」と声を掛けてしまった。午後御所の畑に入りかけたら金色をしたテンが小屋の横の土手を後ろを何度も振り向きながら逃げた。追いかけてなんかいないのに。(斎藤)

★(岸和田)3月3日お墓参りの途中ツバメを見ました。岸和田はやっぱ暖かいです。

・(斑鳩)3月9日イソヒヨドリがさえずっていました。1年ほど早しか見ていなかったのでもを見てほっとしました。



・15日ハシボソガラスが巣で卵を温めだしました。

・16日ツバメ初認。元気で飛び回っていました。

ハシボソガラスの子育て中の巣

(勝田)



原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト4・5月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
 —「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
 （案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）

日時	4月 8日（木）	活動日
	4月10日（土）	菜の花祭り（菜の花プロジェクト）
	4月12日（月）	野鳥調査（小雨実施）
	4月22日（木）	活動日
	4月29日（木）	活動日
	4月30日（金）	雨天の予備日
	5月 6日（木）	活動日
	5月10日（月）	野鳥調査（小雨実施）
	5月13日（木）	活動日
	5月20日（木）	活動日
	5月29日（土）	活動日
	5月31日（月）	雨天の予備日



集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時
 交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行（平日・土曜）
 ②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR奈良行（平日）
 8:30発 JR奈良行（土曜）

① ②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、*環境保護のため、
コップ・箸・椀は各自でご持参下さい。

活動内容

・里山林整備、環境整備、植生調査、笹・草刈、花木植栽等の景観形成、
 椎茸作り、復元田畑の農作業、有機栽培の堆肥作り、土作り

*自由活動日について

・火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は
 下記までご連絡下さい。

*連絡先 担当幹事 古川

4月例会「当尾の里」を訪ねて

大仏さんを過ぎ、奈良坂を越えると静かな里山が連なります。その花々に彩られた一角、浄瑠璃寺や岩船寺、石仏を訪れて見ませんか。

日時：4月5日（月） 10:00

集合場所：近鉄奈良行基菩薩前

行程：近鉄奈良バス13乗場 10:18～浄瑠璃寺前～石仏群～岩船寺～浄瑠璃寺～バス停（凡そ10kmほどで歩きやすい。15:00解散予定）

持物：弁当、水筒、雨具、ほか

担当：板橋 大石



*ならやま野鳥観察

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：4月12日（月）

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田

・菊川



10周年記念企画オブション行事「柳生から桜の笠置寺―笠置古道」

当会が過去に実施した東海自然歩道シリーズを3年間に亘り再訪します。そのスタートは剣豪の里柳生から。なお解散後「わかさぎ温泉」で友と一献かたむけ、疲れを癒すのも。

日時：4月19日（月） 9:20

集合場所：近鉄奈良行基菩薩前

行程：近鉄奈良バス4乗場9:40～柳生～家老屋敷～陣屋後～笠置寺～JR笠置 約10km
のフラットなコース 解散 15:30 予定

持物：弁当 水筒 雨具 ほか

担当：弓場 大石



アースデー2010inなら開催



奈良県流域下水道センター自由広場で今年も地球温暖化防止や生物多様性をテーマにアースデーが開催されます。様々な体験イベントもありますのでご家族みなでご参加ください。

奈良・人と自然の会も竹工作や竹伐り体験で出展します。当日ブースでお手伝いいただける方大歓迎です。ブースにお立ち寄りください。

日時：4月24日（土） 9:45～14:30

場所：奈良県流域下水道センター 自由広場（ファミリー公園前駅下車すぐ）

内容：大和川河川敷清掃、ウォークラリー、自然観察、フリーマーケットなど



<5月の予定>

5月例会のお誘い

「春のいろいろな植物を植物園で観てみよう」

今回、奈良を飛び出して府立京都植物園の春の草木を楽しみながら学びたいと思います。植物園をベースに活動されている「京とおうみ自然文化クラブ」のベテランガイドの方に私達に合ったガイドをしていただきます。

日 時：5月11日(火) 10時～15時予定

(前日21時前のNHKニュース降水確率60%の時は中止、予備日なし)

集合場所：京都地下鉄国際会場行き 北山駅③出口

持ち物： 弁当、飲み物、双眼鏡など。(園内に軽食などもあります)

* 60歳以上の方は年齢を確認できるものをお持ち下さい。(入場料無料になります)

担 当：守口、西谷

第9回 通常総会のご案内(予告)

日 時：平成22年5月15日(土) 午前10時より

会 場：奈良市中部公民館 第4講座室

奈良市上三条町23番地の4

会次第：①第9回 通常総会 10:00am～12:00

②平城宮跡・大極殿周辺散策 1:00pm～

* 第9回通常総会を迎え、会員各位のご参加をお待ち致しております。

お問合せ：弓場 厚次



<6月の予定>

6月例会のご案内 昆虫に親しむ……橿原市昆虫館と周辺の散策

昨年12月から休館し、大規模リニューアル工事を行っていた橿原市昆虫館が新装オープン(5月1日一部、6月1日全館)しますので、これを機に同昆虫館と周辺を巡るプランにいたしました。これを機に一そう昆虫に親しんでいただきたいと思います。

日時：6月2日(水) 近鉄大阪線 大福駅南口 09:30集合

(例：西大寺 08:48 橿原神宮前行急行→八木 09:23 榛原行準急→大福 09:27 着)

行程：大福駅～万葉の森東側遊歩道～橿原市昆虫館～万葉の森西側遊歩道～天香久山～

奈良文化財研究所都城発掘調査部資料室(藤原京跡等資料展示)～畝傍御陵前駅

〔注〕①天香久山の登降は急な階段状の道が続きますからストックがあると楽です。坂道は上り下りとも10分くらいで、短い距離です。

②昆虫館見学後は昼食休憩にしますが、午後は自由行動でも結構です。昆虫館前13:00発の近鉄八木駅前行きバスもあります。

ご注意：前日午後7時前のNHK天気予報(奈良県北部)の降水確率が60%以上の場合は中止します。

担当：小嶺 ・ 菊川

平成 22 年 3 月度幹事会議事録

日 時：3 月 9 日（火）会場：奈良市中部公民館 司会：寺田 記録：守口

議事【報告事項】

①会員数 141 名

②2 月例会：大和川野鳥観察（2/17）好天に恵まれ良い観察会が出来た。参加者：21 名
3 月例会：津越の福寿草観察（2/28）実施の可否の判断が難しかった。参加者：15 名
今後「予備日は設けない」「判断が難しい時は参加者から担当者に問い合わせること」

③ならやまプロジェクト活動：定例 3 回、臨時 4 回、鳥の日 1 回

参加者：131 名（前年同月 122 名）

④4/10 菜の花まつり 料理（天ぷら、味噌汁）と散策などを計画

⑤教育実習の参加者：55 名（昨年度 39 名）実習生の感想は大変好評であった。

その際の植生調査は、ならやま里山の状態のわかる価値ある調査となった。

⑥クラブ制度について

- ・「なすクラブ」と「そば文化クラブ」の承認、会費等はクラブに一任
- ・「のらの会」は同好の者の親睦の集まりとして独自運営

⑦「校庭観察会」の依頼があり受け入れる。来年度合計 4 回（佐保台小、左京小各 2 回）

⑧第 2 回パソコン教室（3/8）は好評裏に終了 参加者：13 名

【討議事項】

①会則変更…4 点 次回幹事会で文案提示する

- ・名称変更一第 2 条：シニア自然大学校
- ・賛助会員の新設一第 5 条
- ・顧問の新設一第 7 条、第 8 条
- ・副会長は会長が指名する

②新活動エリア（現在のフィールドの南すぐの所、JR 沿いの平坦な土地約 1ha）

植樹プランと植樹後の管理（年 4 回ほどの草刈り）を会で行う。

③総会：5/15 中部公民館 6 月例会：6/2 橿原昆虫館

編集後記：*2 日ばかり奈良を離れ、帰ってくると近くの公園は一変。ユキヤナギ・レンギョウは満開、ソメイヨシノの芽もピンク色ではち切れそう。野鳥たちもペアでの行動が目立つようになっていました。本会報がお手元に届くころは丁度花見ころかと思います。***会報 5 月号の発送作業日は 4 月 26 日(月)です。**「奈良県西奈良ボランティアセンター」で午前 9 時からです。先月は 10 名の方の協力で大変助かりました。有難うございました。引き続き協力お願いします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX：

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生